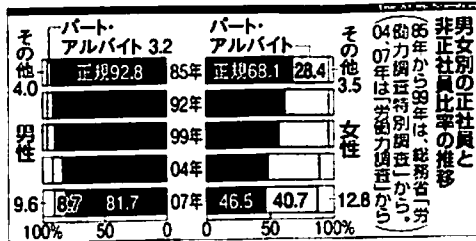


高まれ関心 分野超え連携

ネット結成 政策提言目指す

「女性で安心、貧乏でも安心」。こう書かれた幕の前で女性たちがそれぞれの貧困を報告する。9月28日、東京の千駄ヶ谷区民会館で開かれた「女性と貧困ネット」の発足集会は熱気であふれた。

ホームレス女性らの「ノラ」の会や「新宿野宿者女性の会」などを開く「ノラ」などと親の助け合いNPO「しんるま」が、貧乏女性の全国センター「働く女性の貧困問題」を結成した。



（ACW2）「……（こう）した組織が初めて分野を超えて連携に踏み出した。引き金は、「女性の貧困」への世間の関心の低さだった。非正規社員は働く女性の5割を超え（グラフ）、その賃金は男性正社員の4割程度。ACW2には、パートの低賃金で働いても食へられない、社会保険に入れない、と悲鳴のような相談が相次ぐ。

シングルマザーの平均年収は170万円程度。これを支える児童扶養手当も削減が打ち出される。シングルマザーの8割は働いているのに、政

「家出たら死ね」という社会

集会では、「解決策」のほがずの結婚が招いた女性の貧困体験が次々と報告された。

夫のDV（パートナーからの暴力）で離婚した千葉県的女性（55）は、結婚前は幼稚園の先生。結婚退職し、夫の郷里へ移ったが夫は仕事で長

府は就労による自立を促す。「女性の低賃金は問題にさぐれにくい。非正規員の過酷さが社会問題になったのは男性の非正規化が進んだから」とACW2の伊藤みどり代表。

フリーターの当事者発信雑誌をつくる「フリーターズフリー」の栗田聡子さん（34）は若手も合流した。「20、30代は男性も非正規が多い。女性を養えるとは思えないが、女は貧乏でも結婚すればいい」と言われる」と笑う。

女性の貧困を見えるようにする、異なる分野の連携で安心のシステムをつくる、貧困問題に政策提言をしていく……。そんな目的で、ネットワークの結成が決まった。

男性に波及解決に一石

女性の働き方は、男性のワーカー化の「先行事例」との見方も相次いだ。

東京の派遣社員の女性（45）は、OA機器の操作や財務管理などを担当して来た。課長級の資格が深夜の会議にも出席を求められ、賃金は月13万円。いきなり仕事を打ち切られ、日雇い派遣でついでにできた。最近、若い男性が「こんな賃金ではプロボウズもできない」「子どももつくれる」と嘆き始めた。「女性たちの問題が男性にも波及した」と感じる。

「しんるま」の赤石千衣子さんは、「女性に食べられないほどの低賃金でも社会保険がなくとも問題にされない。その便利さを味わった企業が、男性にもこれを広げた。」

会場からは「男性の貧困化はよくないが、男女が共通の言葉で貧困を話し合えるようになった面もある」との声も。「貧困女性の連携」は、男性の貧困解決にも一石を投じつつある。

「女性と貧困ネット」のブログはhttp://d.hatena.ne.jp/binbowwomen/（編集委員・竹信三恵子）



「女性で安心 貧乏でも安心」のスローガンを掲げた「BINBOW WOMEN（ピンポー・ウィメン）」の幕の前に、輪になって貧乏体験を報告する女性たち＝28日、東京都渋谷区

集会所では、「解決策」のほがずの結婚が招いた女性の貧困体験が次々と報告された。

夫のDV（パートナーからの暴力）で離婚した千葉県的女性（55）は、結婚前は幼稚園の先生。結婚退職し、夫の郷里へ移ったが夫は仕事で長

府は就労による自立を促す。「女性の低賃金は問題にさぐれにくい。非正規員の過酷さが社会問題になったのは男性の非正規化が進んだから」とACW2の伊藤みどり代表。

フリーターの当事者発信雑誌をつくる「フリーターズフリー」の栗田聡子さん（34）は若手も合流した。「20、30代は男性も非正規が多い。女性を養えるとは思えないが、女は貧乏でも結婚すればいい」と言われる」と笑う。

女性の貧困を見えるようにする、異なる分野の連携で安心のシステムをつくる、貧困問題に政策提言をしていく……。そんな目的で、ネットワークの結成が決まった。

自殺で家族をくんで

全国自死遺族総合支援センター編

夫や妻、親や子どもを自殺で失った人々と、自殺を防ぐ活動に取り組む人々、27人の手記をまとめた。

自殺までの経緯やその後の遺族の厳しい苦悩。多くが自らも自殺者を責め、周囲の冷たい視線に傷つき、怒りと悲しみで精神のバランスを崩す。一方、苦しんでくれる人の存在で人生を取り戻し、死者との思い出とともに生きようとする。

10年間、毎年3万人が自殺する日本。「自殺は不幸で隠すべきもの」「死ぬのは弱い人」という偏見と無関心を覆えたい、という断りて出版された。各地の団体、相談先も掲載する。

（三百世、税抜き1,500円）

